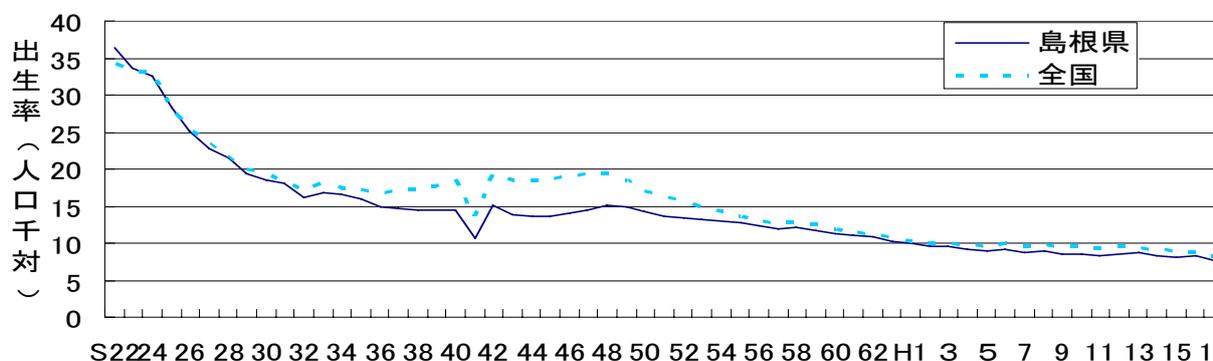


2 出生

(1) 出生数・出生率

平成 17 年の出生数は 5,697 人で、前年の 6,104 人から 407 人減少し、出生率（人口千対）は 7.7 で、前年の 8.2 を 0.5 下回った。昭和 22 年～昭和 24 年（第一次ベビーブーム）の出生率は 35.0 前後と高かったが、昭和 25 年から急激に下降していった。その後一時回復するものの、昭和 41 年の「ひのえうま」前後の特殊な動きを除いて緩やかな減少傾向が続いた。昭和 46 年からの第 2 次ベビーブームでわずかに回復し、その後は減少傾向が続いたが、平成 16 年は過去最低であった平成 15 年の 8.1 を 0.4 下回っている（図 1）。

図 1 出生率の年次推移



出生数を母の年齢（5 歳階級）別にみると、15 歳～19 歳、45 歳～49 歳で前年から増加した。（表 2）

表 2 母の年齢（5 歳階級）別にみた出生数

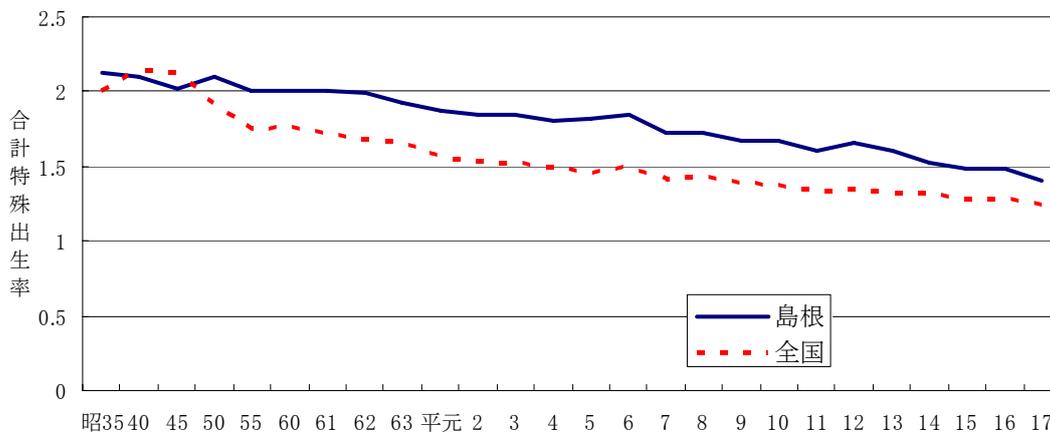
母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	15 年－14 年	16 年－15 年	17 年－16 年
総数	6,318	6,092	6,104	5,697	△ 226	12	△ 407
～14 歳	-	2	-	-	-	-	-
15～19	114	105	94	104	△ 9	△ 11	10
20～24	984	923	894	780	△ 61	△ 29	△ 114
25～29	2,453	2,276	2,204	2,006	△ 177	△ 72	△ 198
30～34	1,974	1,985	2,066	1,987	11	81	△ 79
35～39	705	712	732	721	7	20	△ 11
40～44	83	85	112	96	2	27	△ 16
45～49	3	4	2	3	1	△ 2	1
50 歳以上	2	-	-	-	△ 2	-	-

(2) 合計特殊出生率

平成 17 年の合計特殊出生率は 1.40 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県のほうが上回っており、順位は全国 9 位である(図 2)。

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢 5 歳階級別女子人口については、平成 12 年は日本人人口(国勢調査)、平成 13 年から平成 17 年までは総人口(総務省推計)であるため、単純にそのまま比較することはできない。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



年齢階級別にみると、各階級で下降しており、35 歳～39 歳のみ同じ値となっている。(図 3)

図 3 年齢階級別合計特殊出生率の年次推移

